

会報 91号

発行 日本介護福祉士会静岡県支部
一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)

介護技術ケアコンテスト — ケアコン2019 —

2019年11月9日 / シズウエル

昨年までは、静岡県主催のケアフェスタの中で介護技術コンテストとして実施していましたが、今年は初の単独開催となりました。例年、企画運営はプロに任されていたが、今回は全てに委ねられたことで、早期に委員会を立ち上げました。部門毎に人物像、生活歴等検討し課題を公開し、競技者を募りました。その結果33名もの応募があり、24名を選考しました。事前に個別援助計画書を作成、提出し審査を行いました。

当日は、賛助会員施設、県内の高校福祉科、競技者施設等の協力もあり、210名の参加がありました。競技中は日頃から利用者として接している様子が見て取れ、その人の嗜好や生活環境等を通しての会話、ケアの手法が工夫されていました。どのブースも温かな雰囲気のおかげで進み、各部門から1名の優秀者に県知事賞、事前の個別援助計画書の優秀施設に会長賞が贈られました。静岡福祉大学の増田先生からは、「介護はまず、そばに居てさりげなく目を合わせ、手を合わせて言葉を交わす、あわてることなく一方通行でなく、自然体で利用者の立場に立ってのケアは時に目を潤ませながら拝見させて頂いた。ここに愛は技術であるのか、愛はテクニックではないことが証明されているようにした。」と印象深い講評を頂きました。令和初の手作り感満載のコンテストは、盛会のうちに幕を閉じました。同時に福祉機器、事業者展示ブースもあり、情報提供の場となりました。ご協力頂きました全ての関係者に感謝致します。ありがとうございました。



県最優秀賞

<食事部門>

特別養護老人ホーム白扇閣 加藤 明奈 様

<入浴部門>

介護老人福祉施設エクレシア南伊豆 君塚 祐香 様

<排泄部門>

特別養護老人ホームあおい荘 平井 新也 様

<会長賞>

(個別援助計画書の優秀賞)

介護老人福祉施設楽寿の園 様

食事部門 最優秀賞 「チームケアの良さ」



ケアコンに出場する際に、施設の代表に新米の私が出てもいいのかな?と不安でした。そんな不安を吹き飛ばすかのように、同じフロアの方や先輩からアドバイスを頂いたり、練習に付き合ってもらいました。そのお蔭もあり、本番も落ち着いて介助することができました。アドバイスの中には

分では思いつかない発想や考え方もありました。その方への助をより深く考えるきっかけにもなり、自分だけで考えるのではなくチームで考える事の大切さも学ぶことができました。また、自分の方の介助を見ることもでき、自分の介助の仕方、コミュニケーションの仕方、とても勉強になり良い経験ができたと思います。

特別養護老人ホーム 白扇閣 加藤 明奈

入浴部門 最優秀賞

「普段の積み重ねが良いケアを生む」



今回初めてケアコンテストに参加させて頂いて、良い刺激を受け、とても希少な経験がすることができ嬉しく思います。実際のご利用者様役の方は事前情報よりも認知症が進んでおり、どうケアをしたら良いか考えましたが、いつも通りケアをすることで、利用者様役の方が何をしたいのか考えることができ、接することが楽しく自然と笑顔でケアすることが出来ていたと思います。普段からご利用者様のことを第一に考え、ケアを行う中でご利用者様がしたいことや今考えていることを引き出していけるよう心掛けています。これからもご利用者様一人ひとりに向き合い、ケアに繋げていきたいです。

介護老人福祉施設エクレシア南伊豆 君塚 祐香

排泄部門 最優秀賞 「介護技術コンテストに出場して」



介護技術コンテストに参加させて頂いて、日頃の介護技術を見直すきっかけとなりました。事前課題に向け、先輩職員の方々に教わりながら、個別援助計画書の作成をしていた時はもちろん、それ以上にコンテストの場で他の出場者の皆様が実践してくださった介護方法が非常に勉強になりました。利用者への声のかけ方、移乗の所作、排泄のケア、プライバシーへの配慮など大筋は同じでも立案した計画に沿って細かな差異があり、自分にはなかった考え方を知ることができる良い機会となりました。参加された皆様の技術を参考にさせていただき、これからの介護に活かし利用者様に、より快適に過ごして頂けるよう努めてまいります。今回は参加の機会を賜り誠にありがとうございました。

特別養護老人ホーム あおい荘 平井 新也